

第26回 アクラスZOOM寺子屋 感想

ご感想

貴重な機会を設けていただきどうもありがとうございました。

出来れば、もう少しコーパスの検索方法や正規表現（文字列検索）について深く知りたかったのですが、そもそも初心者向けの研修会だったのですね。きちんと内容を把握できていなかった私が悪かったと思います。日本語教師や研究者においてコーパス使用は当たり前の世界だと思っていたので、コーパスに慣れていない先生方がいらっしゃるということ自体がある意味新鮮でした。今回ご紹介いただいた書籍は手元に置いて学生にもふ紹介したいと思います。この度はどうもありがとうございました。

大変楽しく、あっという間の2時間でした。ありがとうございました。

【砂川先生のお話について】

・これまで少納言を使ったことがなかったのですが、砂川先生のご説明を伺っていて、少納言だったら初級の学習者でも楽しく遊べて、言葉に対する興味が増すきっかけになるのではないかと、ということに気がつきました。ひとつの言葉についてどの表記がより多く使われているのか（「きらきら」と「キラキラ」など）というのは数値で表示されるので、初級の学習者にも理解しやすく、判断材料のひとつにすることができると思います。自律学習にもつながる可能性を秘めていると感じました。今度、授業で実践してみたいと思います。

・「海外」と「国外」については個人的に常々考えていたテーマでしたので、これが書籍に取り上げられたことを知ったときはとても驚き、そして感激しました（それまでは誰もこんなものには興味を持たないだろうと思っていました）。ZOOM寺子屋の場で砂川先生と「海外」と「国外」について意見交換をさせていただいて、とても幸せでした。私が翻訳の際に基本的には「国外」を選んでいたのでさまざまな理由と背景があるのですが、砂川先生がおっしゃった「ボーダー」というのは全く気づきませんでした。盲点でした。「海外」と「国外」について改めて考え直してみたいと思います。

・コーパスの検索方法に関する不安は取り除かれたような気がしています。勇気を出して質問してよかったです。砂川先生でも間違えられることがあるというのは新鮮な驚きでした。背中をポンと押されたような感じがしました。また、不安なときは誰かに見てもらうということは実は考えたことがなかったもので、砂川先生にそのようなアドバイスをいただいたとき、はっとしました。実はいろいろあって孤軍奮闘状態が続いていたので、これについて助けを求めるという発想がありませんでした。このことに気づくことができたのはよかったです。経験を積んで頑張ります。

【松岡さんのお話について】

・1冊の書籍が書店に並ぶまでの過程が目に見え、心がわくわくするのを感じながらお話を伺いました。これから書店に行ったときは、そういうことを感じながら1冊1冊の本を手にとってしまいそうです。本がこれまでよりも温かく感じられるような気がしています。

・初めて書籍の案内を見たとき、コーパスについてのものなのか日本語についてのものなのか実は最初はわかりませんでした。今日のお話でその背景を知ることができ、どうしてそのときにそう感じたのかがよくわかりました。

・フォントを教えてください、ありがとうございました。見やすく読みやすいドキュメント等を作るという観点からフォントは私にとって関心の高いテーマなので、参考になりました。フォントについてもっと詳しくお聞きできたら良かったと終わってから思いました。

・電子書籍版が出たら、とても嬉しいです。

加戸さんのお話が伺えなくて、とても残念でした。興味のある分野なので、機会があればお話を伺いたいです。

何度かコーパスの勉強会に参加したのですが、今一つどう活用すればわかりませんでした。検索の方法を理解していないから活用できないのか、なにかを検索しても、どう解釈したらいいのかと悩んでいました。本日参加して検索の詳しい方法はサイトに提示されていること、検索の内容は全く個人の自由、専門的で学術的な利用でないから解釈も自在で・・・探求して楽しむことと受け止めました。そんなことは言っていないと言われるかもしれませんが・・・探求の気持ちで「やってみる」を繰り返すと見えてくるものがあるのではと思ったので試行錯誤を繰り返したいと思います。また、仲間を作ると言われていたのでこれも実践したいと思いました。意見を聞きあうことはどこでも活用できることなのかもしれません。また、出版までのお話にあった装丁について、PPTの作成に当てはめると見栄えという視点をもつことで見せ方が変わってくるかもしれないと思いました。貴重なお話ありがとうございました。

貴重なコーパス情報と書籍化されるまでの充実し楽しげなご様子を伺えました。
日本語学習者と日本語母語話者コーパスでの「テシマウ」・「チャッタ」の比較は大変参考になりました。
辞書にも用例として掲載されていない用法の発見、とても興味深いものでした。

日本語学習者が理解に苦しみ、しかし日本での生活で頻度高く使われているオノマトペの習得にコーパスが使えないものか？など、調べてみたいテーマです。
数々あるコーパスを使ってみたくなる2時間のセミナーでした。
ありがとうございました。

コーパスを使ってみよう！とワクワクした気持ちになりました。コーパスを使用するということと、必ずしも母語話者を規範としない日本語学習・教員とのバランスや兼ね合いをどう考えるか、これから考えてみたいと思います。ありがとうございました。

参加することができて本当に有り難かったです。書籍が発行された経緯や著者と編集者の思い入れがよく伝わりました。大切にもう一度読ませていただきます。質問をしたかったのですが、中身の濃い質問が多くて尻込みしてしまいました。また次の機会に手を挙げたいと思います。

今日の砂川先生のコーパスのお話は具体的にどのようにサイトを利用したらいいか、その操作方法等も教えていただき、本当にわかりやすく、また先生のお話からコーパスの面白さを十分に感じることができました。是非、これから使っていこうと思います。「～てしまいます」「～ちゃいます」「～てしまいました」「～てしちゃった」の日本人の多用は、私も時々日本に帰国して父と話したときに、使用度の頻度が高いこと、そして「こういう使い方もするのか」と印象的だったのを思い出しました。

最近の日本語教育では、日本語の運用にさらに重きを置くようになってきていると思いますが、私たちが実施している高度人材研修やエンジニアたちの研修でも、用法のわずかな違いでもいち早く察知し、多くの質問が出てきます。日本語の運用が少しでもできるようなカリキュラムを組んでいますが、自分の感覚だけではなく、コーパスに裏付けられた説明をする必要性を感じました。

インド人の学習者の場合は、私もヒンディーを勉強した経緯があり、多言語との比較を用いた説明も可能なのですが、コロナ禍を境にオンライン授業も増え、インド人以外の学習者に教える機会も増えてきた現在の状況で、初級学習者の母語との比較ができないため、コーパスを参考にしながら教える方法に挑戦したいと思います。

松岡さんの編集者としてのお話も、大変興味深く聞かせていただきました。私は以前、新聞社に勤めていたことがあり、出版社との方ともお付き合いがあったのですが、デジタル化を推進力とする大きく変わりゆく今の時代では、もっともっと以前よりいろいろな観点から考えていらっしゃるのだなあ、と思いました。今日のお話でも「アマゾンサイトではサブタイトルまで全部表示されない」とおっしゃっていましたが、まさにそういうことなのですね。

今日のセミナーのお二人のコンビネーションは、とても素敵で、聞いている私たちにも、お二人の楽しさが伝わってきて明るい気持ちになりました。ありがとうございました。

本日はとても興味深いコーパスの世界の扉を開けて見せていただきありがとうございます。砂川先生が本当に生き生きとお話になられる様子が、無味乾燥になりかねないデータとして扱うものの向こうにある温度や色のようなものを感じることができました。

さまざまあるコーパスをそんなふうに切り分け使い分けのんだなと思ったら、ただただ不安という気持ちが少し落ち着きました。またほんの小さな違いや気になるがこんなふうに調べられるんだなとも気づきました。しかしながら、そのちょっとした違和感から考える問いが言語化されたり、ピタッと決まっていく様子は(何事もそうだと思いますが)たくさん触れて感じ続けていくことで磨かれる感性の一つだなと感じました。

また、松岡様のお話も本がそうやって産まれていくだというとてもわかりやすいお話で知ることができて、嬉しかったです。わかりやすいお話、本当にありがとうございました。

残念ながら、途中退室となったことが悔やまれます。最後まで伺いたかったです。

※本日は急用が入り、途中で退室となりました。大変失礼いたしました。

「コーパス」という言葉は知っていたものの研究者や専門家のみが使うというイメージがありました。砂川先生のお話を伺って誰もが気軽に使えることがわかり、とても身近に感じることができました。執筆や校正の機会は多々ありますが、言葉の変化に有用かなとも思いました。種類もいろいろとあるので場面に応じて適切に活用できればと思います。実際に使われた点がAIとは異なりますね。今後益々「日本語コーパス」が充実することを望みます。ありがとうございました！

アクラスzoom寺子屋に初めて参加をさせていただきました。嶋田先生の迫力あふれる司会と、砂川先生・松岡さんのお話でとても豊かな勉強時間になりました。質問がなかったわけではありませんが、朝の時間で頭が寝ぼけていたことと、まだ慣れていないこととで、失礼いたしました。加戸さん（大学の同期）のお話が聞けなかったのはとても残念でした。コーパスの本を読んで一番に思ったのが、この文体だったからです。研究の社会への還元が叫ばれて久しいですが、このような本が世の中にあって、専門的な内容をわかりやすく示しているのはすばらしいことだと思いました。コーパスを利用する本は巷に数多く出版されていますが、その多くは、コーパスの使い方を説明したものが多くと思います。それはそれで勉強になってありがたいのですが、少し無機的な印象を持っていました。コーパスで分析をするとこんな面白いことがわかる、コーパスで分析すると「なんとなく」思っていたことをデータで確認できる、などということを、この本は一つ一つ例や分析結果や説明で示してあると思います。それがこの本の魅力だと思います。「わたしもやってみよう」という気になる人が出てくること必須だと思います。先日から大学の授業で、KH Coder を使って学習者作文を分析しています。結果を示すのではなくて、一步一步学生と一緒に分析しながら発見するプロセスを共に分かち合いたいと思います。嶋田先生、お話をくださった砂川先生、松岡さん、ありがとうございました。

PCのカメラが機能せず最後までビデオオフで失礼しました。コーパスを使いたいと思う時はいつも時間に追われていて 使い方がわからず諦めるということばかりでした。今回の勉強会で少し有効利用できそうです。ありがとうございました。

まずはお詫びを。私はリスではなく猫だと思い込んでおりました。よく見たら、あらま、リス！ 大変失礼いたしました。でも私は、お茶している時ですらしれっとした目つきのこのキャラクターが好きです。今まで、私にとっての「コーパス」は理解領域のことばであり、使用語彙ではありませんでした。日本語教師を15年以上名乗っていながら、言葉そのものをじっくりと考えたことがなかったなと反省しております。寺子屋の案内のチラシを見た時に、本のタイトルである「気になる言葉の使い方を調べてみよう！」の文字がザクッと頭に刺さり、これはとにかく申し込まなければと、急ぎポチっとした次第です。運よくキャンセル待ちで繰り上がり、受講が叶いました。早速ネットで本を発注したのですが、開封してびっくり。あれ、小さい…。チラシだと本の大きさはわからないので、勝手に教科書サイズだと決めつけていました。しょっちゅうバネ指になってしまう私でも、通勤電車の中で片手で持って読めるサイズと重さで、カバンに入れても負担なく持ち運べ、とても気軽に読めました。そして、数ページ読んだ時点で、日本語教師仲間じゃなくて、幼馴染の友達に広めなきゃ！と思いました。私が日本語教師をしていることを知っている友人が時折、日本語学習者がネットにあげているJLPTの問題を解いては、難しい！と報告してきたり、〇〇と△△の違い何て考えたこともないよ、日本語ってけっこう難しい言語だったんだね、などと連絡してきたりするからです。おもしろいツールがあるんだよと、年末に本とコーパスのことを広めようと思っています。今回のお話の中でショックだったのは、砂川先生がお考えになった「わだかまり」や「おもいがけず」の～てしまうの用法については辞書にも載っていないというお話です。間違ったことを教えてしまわないようにと、これまで文法書や辞書を崇めて調べてから授業をしてきた私は、今まで辞書や文法書に載っていないことを理由に却下してしまった例文があったのではないかと冷や汗をかきました。調べものをしてながら時々抱える違和感はどこだったのだと今更ながらに思い、今後は少なくとも少納言様とはお友達に、中納言様とは顔見知りになるろうと決意した次第です。決意したのであれば「すごい～だった」について自分で調べるべきとは思いますが、他にお調べになった事例も含めて、先生の見解をどこかで読めたらうれしいです。

メインスピーカーの砂川さん、編集者の松岡さんとも、本「日本語コーパスの世界へようこそ」には出てこない細かな点までお話しして下さったので、勉強になりました。

砂川さんのお話では、「てしまう/ちゃう」の使用実態が日本語母語者と外国人学習者の間で大きく異なること、その背景として日本語教育の影響が推認されるという点に興味を惹かれました。数量的分析でこそ浮かび上がってくる論点であり、コーパスの威力だと思います。またコーパスの使い方や「中納言」と「少納言」の違いなどを説明していただいた点も参考になりました。

松岡さんのお話では、本のタイトルの決め方や装丁、デザインなど本作りの舞台裏を具体的にお話しいただき、楽しく聞くことができました。以前に毎日新聞校閲センターのウェブサイトで松岡さんのコラムを読んだ記憶があり、「とても言葉に愛着のある方」という印象を持ちましたが、実際のお話でも、言葉や本作りに関する深い思いを感じることができて、嬉しく感じました。

砂川有里子先生、編集者の松岡滯さんのお話を伺う前に、レジメが送られてきていたので、PCの画面に一応開いておきましたが、砂川先生はコーパスを実際に使いながらのご発表で、同時進行的に自分でコーパスを見ているかのごとく、より楽しめました。

著書の装丁、イラスト、帯のお話などは、出版の仕事に長年携わってきたため「なるほど～」と思いました。黄色ストライプ、リスのイラスト、ポップでしゃれています。フォントの選び方もまた、ゴーストライターなどもしてきたので、アドバイスする方がいらっしやるとのお話を聞いた上でも、砂川先生、これからはエッセイなども書かれたらいいかな、とも思いましたが、研究書と一般書って、そんなに違うものなのだと改めて気がつきました。

さて、内容に関わることですが、言葉そのものよりも社会言語学に興味があるので、オネエ言葉と女言葉、「男」と「女」の書き方、そして「職場で人を何と呼ぶ？」の中の”あなた”について、面白く読むとともに、考えさせられました。一般書や会話ではなく、日本語教材に限って考えても、興味あるテーマです。

それぞれの語感だけに頼らず、日本人はこう言うのと逃げず、コーパスというデータを使って気になる言葉の使い方を調べてみたら、言葉の世界が広がるとわくわくしました。しかし、コーパスを使い分けたり、検索の方法を変えたりする方法を工夫しなければならない点は、少しトレーニングも必要なのかと思いました。

大学院時代にBCCWJを使って日本語の言語使用を調べたことがありますが、使いこなせていないせいもあり、あまりピンときていませんでした。砂川先生のお話から、語彙素などにも気を付けながら検索するとよい、とのアドバイスを受け、また使用してみようと思っています。「てしまう」「しちゃう」について、たしかに初級段階の外国人留学生などは、「しちゃう」の使用をためらう傾向があると思います。テキストなどに提示されていても、それが「完了」「遺憾」の場面であるとしても、「てしまう」の方が断然分かり易くて明瞭なのでそちらを使用するし、「しちゃう」は聞いて状況が理解できるレベルから始まるのだと思います。日本語母語話者のコーパスのように、外国人話者のコーパスもあると面白いと思いました。

私大の非常勤として週に4コマ「第三東洋言語選択 日本語I, II」を担当して3年目になります。勉強しても勉強しても、自分がなんにも知らないことにあ然とするばかりです笑。

学習者コーパスから、よく使われる日本語にもかかわらず、教室では触れられていない用法があぶり出されるなんて！

そもそも、講義で「ある文法と言葉（学生が知っている最近の主流語：例 スマホホルダーなど）」を扱うか扱わないかの、必死の裏付けのためだけにコーパスを上手に利用したいぐらいの頭しかありませんでした。ですので、学習者コーパスというものがある事、それを美しく分析する世界を覗かせていただけたのは、さいわいでした。

また同様の機会がございましたら、ぜひ参加したいですし、帰国の折りにはぜひ『日本語文型辞典』を求めようと思います。

今回も大変貴重な機会をいただき、ありがとうございます！

<p>今回のセミナーを通し、私は以下の3点を学ばせていただきました。</p> <p>①第二言語話者だけでなく、母語話者自身も翻弄されるまるで生き物のような言葉の世界（先生のご著書では「臨時一語」として紹介されていたように思います）を、データとして観察できることの貴重さを再認識させられました。</p> <p>②「コーパスで調べてみたら面白そう！何か発見がありそう！」と思える日本語の使われ方を見逃さない敏感なアンテナと、膨大なデータから使われ方の傾向を探り、どの様な文法的役割を持っているか分析できる力、この2つが必要不可欠のだと気付かされました。そしてこの2つこそ、日本語教師として絶えず成長していくために必要な要素でもあると思います。コーパスは、教師力を磨くための強い味方ですね！</p> <p>③ご著書に紹介されていた例の半数以上を実際に身近にいる方々から質問されたことがあり、私にとってはまさに「生きた例」でした。文章も読みやすく、夢中になってあっという間に読み終えてしまいました。</p> <p>素晴らしい気づきを与えてくださり、心から感謝します。</p>
<p>すごくおもしろかったです。あっという間の2時間でした。</p> <p>私はよくninjalを使って、授業や教材に載せる例文を吟味しています。ただ、そのninjalにも目的に合った使い方があるということ、恥ずかしながら今回の寺子屋で初めて知りました。「気になることばの使い方を調べてみよう」というサブタイトルそのもののお話をお聞きすることができて、早速使っています。</p> <p>砂川先生のご著書「日本語コーパスの世界へようこそ」、これも恥ずかしいのですが、まだ手に取っていませんでした。今回の寺子屋で、恥ずかしいとか、読まなきゃとか、そんな気持ちは吹き飛んで、とにかく読みたくなりました。</p> <p>企画から出版まで一緒に担当された松岡さんは正に「舟を編んで」いらっしゃった方なんですね。それを伺ってびっくりしたのも束の間、楽しく読める本を作るための実践的なお話に引き込まれてしまいました。</p> <p>お忙しい中、楽しい時間を本当にありがとうございました。</p>
<p>「日本語コーパス」。何となくはわかるけど、どうやって使うんだろうと気にはなりつつ、そのまま通り過ぎていた言葉でした。今回、「寺子屋」のテーマが「日本語コーパス」と知り、申し込みと同時に購入し、一気に読んでしまいました。似ている言葉はあるけれども、違いがよくわからない。そんな時、自分でいろいろな例を思い出しては言葉の違いを探っていました。これが自分なりのコーパスだったのかと知りました。でも、自分で考え出す例には限界も偏りもあります。使い方を集めたものがあると知ることができたのは本当にありがたかったです。</p> <p>印象に残ったのは「海外」と「国外」の違いでした。どういう立場で、どこでそして、誰が言葉を使うのかによって、使い方も変わってくるのだと改めて気が付きました。</p> <p>そして何より砂川先生の言葉に対する「愛」に圧倒された1冊であり、2時間でした。ありがとうございました</p>
<p>コーパスというと何となく近寄りたく感じていましたが、今回のお話を伺い、学生たちの誤用やいろいろな場面で使ってみようと思いました。まず、使って慣れることだと思いました。</p>
<p>ご著書『日本語コーパスの世界へようこそ』を手にとると、鮮やかなストライプの装丁が目を引き、かわいいアイコンの効果もあって、楽しい雰囲気でもコーパスの世界に誘っていただきました。コーパスを心から楽しんでいらっしゃる砂川先生のお話を伺い、コーパスがとても身近に感じられるようになりました。コーパスを使って初めて見えてくる発見のお話し、わくわくしました。巻末の「はじめてのコーパス使い方ガイド」もとても貴重しております。専門書と一般書の書き方が違って何度も手直しされたというお話も興味深く伺いました。立場の違う相手にわかりやすく伝えるには、どういう内容をどういう形で伝えればいいのか、苦心されたとのことでした。まさに私たち日本語教師にとっても非常に示唆に富むお話しでした。嶋田先生の最後のお話にもありましたが、教師であり発信者である自分自身が、まずは「大いに楽しむこと」そして、受け手に伝わるように「内容を吟味し」、「伝え方を工夫すること」を大切にしていきたいと感じました。</p>
<p>普段知ることができない、本を出版されるにあたってのお話など、大変興味深く伺いました。また、学術書としてではなく、一般の方にもわかりやすいものもあることで裾野が広がり、全体の発展に寄与するのだと改めて感じました。</p> <p>貴重な機会を設けていただき本当にありがとうございました！！</p>
<p>コーパスについての基礎について学び、日常使われている気になったことばを調べてみるなどし、興味を深めたり、研究のきっかけになったりすることもあるかもしれないと思いました。また本の作成にまつわるエピソードを聞けて楽しかったです。参加できて良かったです。ありがとうございました。</p>